

付け祭りの歴史と特徴

当社は古くは旧暦6月20日をもって例祭日とし、この日氏子らは揃って智賀都神社に祈願し、御祭神の御加護を受けてきたが、江戸時代末期には凶作が続き疫病が蔓延した。このため村民は、五穀豊穡と家内安全、村内安全を強く願い、例祭日に合わせて、鉾を供えとともに、屋台を繰り込みお囃子を神前に奉納した。これが付け祭りの始まりである。

付け祭りは概ね安政年間（1854～1859）頃成立したと見られるが、現存する六カ郷の彫刻屋台6台が、揃って神社に繰り込むようになったのは、明治6年以降のことである。

以来、明治期から大正期、昭和期（戦前）にかけて、六カ郷の彫刻屋台は日光街道を練り歩き、智賀都神社に勢揃いした。その絢爛豪華さは近郷近在に鳴り響き、大勢の見物人で賑わい、「娘を嫁にやるなら徳次郎へ」と言わしめるほどであった。

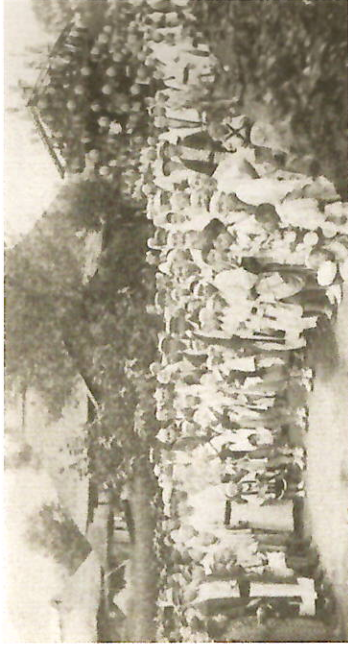
昭和の戦中期を経て、戦後付け祭りが復活したのは、昭和22年である。以後、数年間隔で屋台は出たが不定期であった。昭和51年、ふるさと宮まつりが始まり、徳次郎六カ郷はこのまつりに参加。市内で屋台の巡行を行った。これが契機となり、昭和52年以来、3年に1度付け祭りを行うことになった。

平成元年、徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台が、（宇都宮市指定文化財 有形民俗）に指定された。なお、付け祭りは従来、例祭日の8月1日に行ってきたが、平成16年から祭典は8月1日、付け祭りは7月最終土曜日に繰り上げて行うことになり、現在に至っている。

当社の付け祭りでは特筆すべき点は、高さ3mほどの鉾の奉納である。鉾は神の依り代であって、屋台を繰り込む前に、予め神前に奉納している。

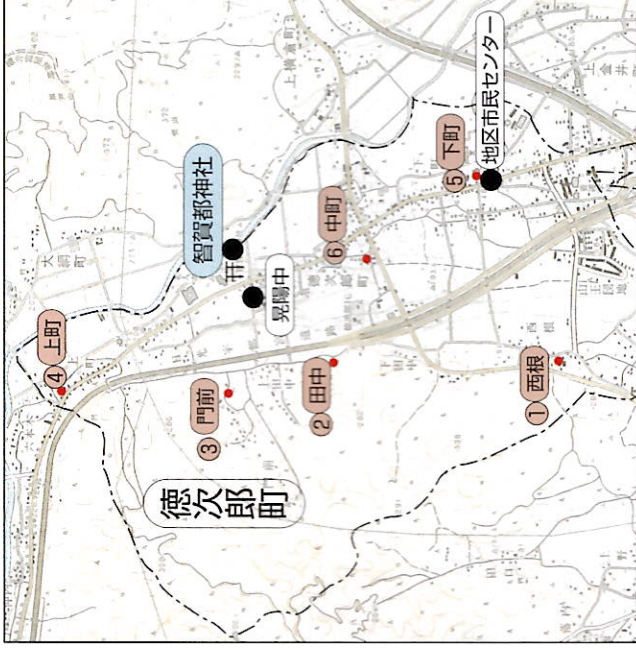
また、6台の屋台の先頭に立つ1番西根屋台には、前方に3本の幣束が供えられる。これは智賀都神社3神の御神体を表すものと言われる。

加えて、この祭りは夜祭りの形態をとどめており、各屋台は夕暮れ時から120個もの提灯を灯して巡行し、夜、神社に繰り込む。かつては氏子らが神前で一晩中お囃子を奉納し、翌朝帰路に着いた。



屋台の巡行・帰路（下町・昭和8年）

徳次郎六カ郷位置図



●印は各町会所 ●印は駐車場

屋台巡行の日程

【宵祭り】7月24日（金曜日）

・各自治会の計画による

【本祭り】7月25日（土曜日）

- ・各会所出発 …… 午後 6時頃～
- ・西根から神社境内への繰り入れ …… 同 8時～
- （西根・田中・門前・上町・下町・中町）
- ・お囃子ぶっつけ …… 同 8時～9時
- ・智賀都神社神事 …… 同 9時～9時30分
- ・西根から神社境内より繰り出し …… 同 10時
- ・各会所(屋台庫)帰着 …… 同 10時30分頃



発行年月日 令和8年6月1日
 発行者 智賀都神社例大祭付け祭り実行委員会
 会長 高藤 光重

徳次郎智賀都神社夏祭り

みや遺産認定
 宇都宮市指定文化財「彫刻屋台」

五穀豊穡・家内安全・豪華な彫刻屋台六台が巡行します



鉾の奉納

令和八年

7月25日(土) 本祭り・屋台神社繰り入れ



智賀都神社例大祭付け祭り実行委員会

智賀都神社

当社は宇都宮市の北西部、徳次郎町に鎮座し、徳次郎六カ郷の守護神として、宝亀9年（778）6月、日光三社権現を外鯨邑千勝森に勧請したと伝える。

日光三社権現を当地に祭ったのは、日光に一大勢力を有していた久次良一族と言われ、日光の宗家久次良に対し、外久次良と称したことから、「ソトクジラ」が「トクジラ」に転化したと言われている。

祭神は主祭神が大己貴命、配神が田心姫命、味耜高彥根命の3柱である。



南北朝期の貞治3年（1364）、得志良近津宮伴四郎大夫家守（神主）は、13度目の男体山禪定を行った。

江戸時代の享保5年（1720）、神道吉田家から宗源宣旨正一位の神号を授かった。また徳川將軍代々崇敬の神社として社領5石、幣物を賜った。

現在の本殿は延享元年（1744）から延享2年（1745）にかけて建立され、江戸時代中期に県内で見られる神社本殿建築の特徴を伝えるもので、令和4年に宮殿、木札と併せて（宇都宮市指定文化財 建造物）に指定された。

昭和54年、大げやきの枝が落下して鳥居が倒壊したため、昭和55年に新鳥居を建立した。

境内の入口には、御神木として樹齢約800年の一對の夫婦げやき（県指定天然記念物）が、堂々とそびえている。なお、このげやきは内部が空洞化したため、平成6年に修復工事を行っている。

当社の年間行事は以下のとおりで、特に元旦の初詣で、7月最終土曜日（3年に1度）の付け祭り、12月第2土曜の冬渡祭は参詣人で賑わう。

月 日	行事名	内 容
1月1日	歳旦 祭	1年の平穏、繁栄を祈る。初詣で。
2月3日	節分 祭	福を呼び災難を追い払う。
2月18日	祈年 祭	農作物の豊作を祈る。
7月最終土曜	付け祭り	神前に屋台を繰り込む。
8月1日	例大 祭	御祭神を迎え、繁栄を祈る。
11月第2日曜	七五三	3歳5歳7歳の子を祝う。
11月26日	新嘗 祭	農作物の美りに感謝する。
12月第2土曜	冬渡 祭	家内安全、無病息災を祈る。